

編集後記：今月の気象学会総会を以て「天気」編集委員長を退任しました。2007年の就任からこれまで「天気」の発行を続けて来られたのは編集委員と編集書記の皆様への献身的な努力によるものです。その活動を支えて下さった学会の理事・事務局および会員の皆様と併せ、深く感謝致します。

「天気」の編集は私にとってやりがいのある仕事でした。しかし、その内容が満足すべきものだったかどうかを思うと心許ないものがあります。我ながらやっていることがマンネリ化してきたことを感じていましたが、そのまま現在に至ってしまったことを反省しております。

これまで折に触れて、「天気」にもっと面白い記事を…というご要望を頂きました。学会誌としての専門性と親しみやすさとの両立は簡単ではありませんが、先端的な研究成果や最新の気象業務を紹介して頂ければ、専門外の読者の興味を引きつけることができると思います。最近研究者も気象庁職員も忙しくなり、執筆をお願いしづらい状況にあります。研究や業務のPRのためにも「天気」を活用して頂ければ有り難く思います（「面白い記事を書いて下さい」とまでは言いませんので）。

今年になって「気象集誌」がWeb化されました。

「天気」のWeb化もいずれは避けられないと思います。これは学会運営全体のIT化という観点から取り組むべき問題ですが、ネットに玉石混淆の記事が溢れる中で、気象学会の情報発信・情報交流のあるべき姿を見出していく必要があります（と思いながら、具体的な対応ができないまま今に至ってしまいました）。

ついでですが、「天気」のWeb化に関連して気がかりなことの1つは、記事の歴史的資料としての価値の確保です。「天気」などの印刷物に載っている記事は、気象や気候に対する研究界の刊行時点の認識を示すものです。しかし、ネットの記事はしばしば断りなしに上書きされ、発信時間の精度が損なわれます。また、記事が削除されて失われる可能性もあります。学会誌のWeb化は時代の流れですが、その内容を正確な歴史的資料として後世に残す方法を考えるべきでしょう。

これからは新委員長のもとで「天気」が発展していくことを期待致します。会員の皆様にも「天気」がより魅力あるものになるようご協力をお願い致します。私もしばらくの間は委員として編集に関わることにしております。引き続き「天気」をよろしくお願い致します。

（藤部文昭）